

ア
ウ
ト
リ
チ

通信



第28号

2016年9月20日発行
年2回発行

神戸女学院大学音楽学部
アウトリーチ・センター

子どものための
コンサート・シリーズ

七夕コンサート

「子どものための七夕コンサート」音にねがいのをせて〜
（「子どものためのコンサート・シリーズ」第四十四回）を
七月二日（土）、本学講堂で開催
しました（第一部十一時開演、
第二部十五時開
演、来場者数・
第一部四六四名
／第二部一四一
名、計六〇五名）。
出演はアウト



このコンサートでは織姫様と彦星様的一天を物語にして、影アナウンサーとプロジェクターでお話の世界を表現しつつ、舞台上で進行する音楽の世界との二本立てにする形で進めました。

開幕はエドワード・エルガー

リーチ履修生を中心に、声楽（荒木この美、塩見友袈、高木華奈）、ピアノ（池上夏帆、上田仁美、金丸史奈、中まゆり、森口真美）、フルート（金木志織）、ヴィオラ（増田佳子）、打楽器（前田紗希）の十一名が力を合わせました。

作曲（愛の挨拶）をヴィオラ、フルート、ピアノで演奏しました。挨拶の後、ポール・デュカスの（魔法使いの弟子）を二台ピアノで演奏。次にフルートが登場して、金色や銀色の横笛で、穴をふさがずに息を入れることで音が鳴ること、ボタン（キー）を押す場所を変えると音が変わることを紹介して、ヴォルフガ



ング・アマデウス・モーツァルト 作曲（きらきら星変奏

曲）を演奏しました。続いてはヴィオラです。ヴァ



次はジョルジュ・ビゼー作曲《アルルの女》第二組曲より（フ

アランドール）をヴィオラ、フルート、テナードラム、トライアングル、ピアノで演奏（川上千晶編曲）。演奏に先立って、フランスの民謡的な踊りで、皆で手をつないだり、リボンを持ちたりして輪になって踊るものと紹介しました。

ここでガラッと雰囲気を変えて、（うみ）を歌いながら履修生で考えたリズム遊びをしました。「オットセイ」「イルカ」「波」



の三つがそれぞれのリズムやタイミングで掛け合うリズム遊びで、会場の子どもた

ちも声を合わせて一緒に体を動かしてくれました。午後の第二部では来場者が小学生以上なので、リズムを少し難しくしてみました。すると保護者の皆さんも真剣に参加してくれて、子どもと大人が一つになってアンサンブルすることができました。ちなみに第二部は子どもたちが全体に大人しくて、ここまではこちらが質問を投げかけてあまり反応がありませんでしたが、このリズム遊びで一気に会場の雰囲気明るく変わりました。



場内が一段落したところで、クロード・ドビュッシーの「喜びの島」をピアノ

ノ独奏しました。子どもたちは、大好きな人・大切な人と行く島はどんな島なのだろうか、島の天気はどうだろうかといったことを想像しながら聴いてもらいました。

続いてフランツ・レハール作曲の喜歌劇

《メリーウィドウ》より「唇は語らずとも」を演技付きでソプラノ二重唱しまし



た。男役の出演者が燕尾服を着て演じたところ、お客様から大好評を博しました。

次にスコットランド民謡の

「アメイジン

グ・グレイス」をソプラノ、フルート、ピアノの編成で演奏しました。神様へ

の感謝を表わす曲であることを演奏前に紹介して、英語と日本語の二か国語で歌いました。

締め括りとして、今まで演奏

した曲の一つにまとめた「七夕コンサート・オリジナルメドレー」(信田亜美編曲)を声楽、フルート、ヴィオラ、二台ピアノで演奏しました。メドレーとは「ごちやませ」という意味で、今日聴いたメロディーがいたるところに隠れているので、見つけながら聴いてねと会場に呼び掛けました。

最後に、下総皖一作曲「たなばたさま」を子どもたちと一緒に歌い、間奏では今日のテーマを復習して、最後は楽器も入っ



て全員で演奏して終演しました。

今年のアウトレイチャー履修生は全員が熱い想いを持っていて、

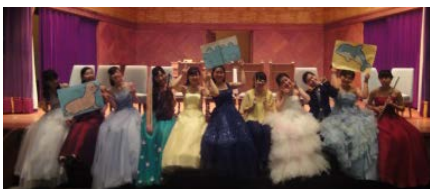
「音楽を通して人と人をつなぐ

架け橋になりたい」という想いから「音にねがいをのせて」という副題にしましたが、それが実現できたと感じています。

終演後には恒例の楽器体験コーナーを実施し、ヴァイオリン、フルート、ピアノ、トーンチャイム、ウインド

チャイムのそれぞれに長い行列ができる人気でした。

(高木華奈・記)



西宮市立門戸幼稚園

六月二日(木) 十時十五分
から門戸幼稚園(西宮市門戸東町
三・二五、園長・石飛弥生先生)

にて園児を対象とする「あじさ
いコンサート」(四十五分)を行
いました(ピアノ・金丸史奈、
フルート・金木志織、声楽・塩
見友袈)。

「梅雨の季節と一緒に楽しむ」
をテーマとして、ソロとアンサ
ンプルとの違いや、楽器毎の音
色の違いを
知ってもら
えるように
プログラム
を考えました。



まずはヴォルフガング・アマ
デウス・モーツァルト作曲(ヘト
ルコ行進曲)で、当日のよく晴
れた天気のように元気な演奏を



ら星変奏曲」を演奏しました。

聴きなじみのある童謡「きらき
ら星」のメロディーが曲中に現
れるので、子どもたちも一緒に
口ずさんでくれました。

続いて木下牧子作曲(風をみ
たひと)を独唱しました。

ピアノ、フルート、声楽につ
いて、それぞれの特徴を分かり
やすく説明

したところ、
子どもたち

はどの曲も
熱心に聴い

てくれました。



して、子どもた
ちを魅了しま
した。

次にフルー
ト独奏で、同じ
くモーツァル
ト作曲(きらき

次に三人のアンサンブルで、
ハロルド・アーレン作曲(虹の

彼方に)を英語で歌いました。

園児の中には海外出身の混血
(ダブル)の女の子もいて、英
語での歌唱をうれしそうに聴い
てくれました。

アクティビティとして湯山昭
作曲(あめふりくまのこ)を皆
で体を動かしながら歌いました。

音楽に合わせて
大きく体を動か
してくれている
子どもたちの姿
を見て、私たちも
負けじと大きく
動きました。



続いて童謡(かえるの合唱)

を門戸幼稚園の石飛弥生園長先
生と齋藤早希先生も巻き込んで、
みんなで輪唱しました。先生方
が大きな身振りでリードして下
さったお蔭で、子どもたちは音
の追いかっこを十分に味わえ
た様子でした。

最後に、やなせたかし作曲(手



のひらを太陽
に)を皆で歌い
ました。子ども
たちは笑顔で、
大きな声で元気
よく歌ってくれ
ました。

例年とは異な

り、今回は「子どものための七
タコンサート」よりも早い時期
でのアウトリーチ活動でした。
教育実習で不在の同級生が多く、
出演者が三人
と少人数で不
安でしたが、子
どもたちから
「ありがとう」
と言ってもら
えて、とてもう
れしかったです。



(塩見友袈・記)

昨年度の学外アウトリーチ

西宮市立門戸幼稚園

十二月十五日（火）十一時十五分から西宮市立門戸幼稚園（西宮市門戸東町三・二五）で幼稚園児を対象に「クリスマス・コンサート」（四十五分）を行いました（ソプラノ・神田幹子、フルート・岡亜梨紗・喜多望有・田中佑奈、オーボエ・樋口成香、パーカッション・山田りさ、ピアノ・尾形佳那恵・和田悠加）。



身近に感じてもらえるようなプログラムを考えました。

ちようどクリスマス・シーズンだったので、クリスマスの雰囲気を通してクラシック音楽を

そこで、この時期にCM等でよく流れるバーナード・フェリックス作曲〈ウインターワンダーランド〉（ピアノ、フルート二本）でコンサートを始めました。続いてフレッド・クーツ作曲〈サンタが街にやってくる〉を出演者全員で演



奏して、楽しい雰囲気のおープニングとしました。

次は雰囲気を変えて、シューベルト作曲〈アヴェ・マリア〉（ソプラノ、ピアノ）と、クリスマス物語として有名なチャイコフスキー作曲〈くるみ割り人形〉より〈トレパーク〉〈花のワルツ〉（ピアノ連弾）とを演奏しました。

ここでルロイ・アンダーソン

作曲〈ワルツイング・キャット〉を使って遊ぶ時間を設け、曲に合わせて皆で眠たい猫や元気な猫の真似をしました。さらに動物つながりで、木下牧子作曲〈ロマンチストの豚〉（ソプラノ、ピアノ）を独唱しました。

続いて、〈アメイジング・グレイス〉（オーボエ、ピアノ）を演奏してオーボエの楽器紹介を、またドビュッシー作曲



《小組曲》より〈バレーエ〉（オーボエ、フルート、ピアノ）を演奏してフルートの楽器紹介を行ないました。

パッヘルベル作曲〈カノン〉（フルート三本、ピアノ）を演奏した後、〈赤鼻のトナカイ〉と〈ジングルベル〉を皆で一緒に歌いました。



幼稚園でのアウトリーチは今回が初めてで不安がたかさんありましたが、子どもたちが元気よく反応してくれて、アクティビティや一緒に歌っている時の一体感が心地よかったです。楽しい雰囲気でクリスマス・コンサートを締めくくることができて本当にうれしく思っています。

（和田悠加・記）



大阪市立総合医療センター

二月十六日（火）十四時四十分から大阪市立総合医療センター（大阪市都島区島本通二、十三・二・二）さくらホールで

スプリング・コンサート（四十分）を行いました（フルート・田中佑奈、ヴァイオリン・尾崎文子、声楽・神田幹子、ピアノ・丹野桃子・尾形佳那恵）。



季節を先取りした春の曲やクラシックの曲まで幅広く組み込みながら、楽器の特性を活かしたソロの演奏を中心にプログラムを組みました。

オープニングには、寒い季節にぴったりの〈北風小僧の寒太郎〉を全員で演奏しました。次にビゼー作曲〈アルルの女〉よ

り（メヌエット）

をフルートで独奏して、ゆったりとしたメロディーに耳を傾けて頂きました。



続いてモンテ作曲の〈チャールダッシュ〉をヴァイオリンで独奏し、華麗な指さばきや弦楽器特有の奏法であるフラジオレットにも注目して聴いて頂くことができました。



次に小林秀雄作曲〈日記帳〉を独唱したところ、かわいらしいメロディーに患者さんの体も自然に揺れていました。ここで会場の皆さんと歌う前の準備体操をしました。

ラジオ体操の曲に合わせて患者さんたちも伸び伸びと楽しんで体を動かしてくださいました。その上で中田喜直作曲〈早春賦〉

と瀧廉太郎作曲〈春〉を一緒に歌い、春を感じて頂きました。

続いてピアノ独奏でドビュッシーの〈亜麻色の髪の乙女〉を演奏し、皆さんとゆったりした時間を過ごしました。



再び声楽で、千原英樹作曲〈はつか草〉を先ほどの声楽曲とは打って変わって力強い歌声で演奏しました。



今回はソロ曲が中心でしたが、アンサンブルのよさも伝えかけたので、声楽、ヴァイオリン、フルート、ピアノのアンサンブルで、マスカール作曲〈カヴァレリア・アル

ステイカーナ〉より〈アヴェ・

マリア〉を演奏しました。

最後に、いずみたく作曲〈見上げてごらん夜の星を〉と岡野貞一作曲〈ふるさと〉を会場の皆さんと一緒に歌ってコンサートを終えました。

患者さんたちとゆったりと楽しい音楽の時間を一緒に過ごすことができたことを心からうれしく思います。

（尾形佳那恵・記）



刀根山病院

大切にしました。

三月十日（木）十四時から国立病院機構 刀根山病院（豊中市 刀根山五・一・一）二階わかばホールで「春風コンサート」（六十分）を行いました（フルート・岡亜梨沙・喜多望有、ヴァイオリン・尾崎文子、ソプラノ・神田幹子、ピアノ・丹野桃子・尾形佳那恵、打楽器・山田りさ）。

今回は、季節を感じられる身近な春の曲からクラシックの曲まで、聴衆と一緒に楽しめる音楽を共有したいという思いで取り組みました。

続いてチャイコフスキー作曲

《くるみ割り人形》より《葦笛の踊り》をフルート二重奏とピアノで、《行進曲》と《花のワルツ》をピアノ連弾で演奏し、同じ作曲家の作品を違った編成でお楽しみ頂きました。

次はソロ曲を中心としたプログラムで、武満徹作曲《小さな空》をソプラノで独奏し、しつとりとしたメロディーに耳を傾けて頂いた後、朝ドラ「あすか」



オープニングではアンダーソン作曲《シンコペイティッド・クロック》を演奏し、これから始まるコンサートのワクワク感を

の主題歌として知られた大島ミチル作曲《風笛》と、サン＝サーンス作曲の組曲《動物の謝肉祭》より《白鳥》とをフルート独奏でお届けして、フルート特有の音色を聴いて頂きました。ここで《ラジオ体操》の音楽に合わせて皆さんと一緒に簡単

な体操を行い、身体のストレッチ

チをして歌う準備ができたところで、岡野貞一作曲《春の小川》、滝廉太郎《花》（ピアノ、フルート、ヴァイオリン）を皆さんと一緒に歌って、春を感じて頂きました。

葉加瀬太

郎作曲《ひまわり》



をヴァイオリンで独奏した後、千原英喜作曲《はっか草》をソプラノで独唱したところ、涙を流しながら聴いて下さる患者さんも見受けられました。マスカニー作曲《カヴァレリア・ルステイカーナ》より《アヴェ・マリア》を声楽、ピアノ、フルート、ヴァイオリンで演奏し、続いてプログラムのメインとなるモンテイ作曲《チャールダーシュ》を出演者全員で演奏した

ところ、患者さんも一体となつて楽しい雰囲気を作り出すことができました。

最後に、いずみたく作曲《見上げてごらん夜の星を》と岡野貞一作曲《ふるさと》とを会場の皆さんと一緒に歌いました。普段と違う編成のスペシャル・バージョンでお届けし、華やかなコンサートの締めくくりとなりました。

終演後、患者さんから「本当によかったです。涙が出るほど感動しました」とうれしいお言葉を頂き、言葉を交わさなくとも音楽を通して心が通じ合えたという実感が湧いて、私たちに

とつても貴重な経験となりました。

（岡亜梨沙・記）



「クリエティブワークシヨップ」

のためのリーディングと指針」の
シンポジウムに参加して

アウトリーチ六期生
東瑛子

五月十日から十三日まで、私はオランダのデン・ハーグで行われたシンポジウム「Leading & Guiding クリエティブ・ワークシヨップのためのリーディングと指針」(主催: Société Gavignies¹⁾、会場: Prins27ⁱⁱ)に参加しました。



このシンポジウムは、クリエティブ・ワークシヨップ(音楽づくりのワークシヨップ)の事例を、各国の音楽家が共有する場として設け

られ、オランダ、アイスランド、フィンランド、オーストリア、英国、日本から四十四名が参加しました。

シンポジウムは十二名のプレゼンターが登場し、活動の現状を発表し、フロアからの提案や質問に答える形で進められました。

私も、英国のギルドホール音楽演劇学校を基点に活動するデッタ・ダンフォード、ナターシヤ・ジエラジンスキの両氏(二〇一二、二〇一五年に来日)の紹介により参加した経緯から、リトミックと音楽ワークシヨップを融合した教育プログラムについて報告しました。



各国でのクリエティブ・ワークシヨップの汎用性の高さ、活動の多彩さが印象的でしたが、特に刺激的だ

ったのはオランダの事例でした。オペ

ラ・ハウスの大掛かりな公演共催プログラムから、認知症の治療にあたる医療機関や保育園での小さなプログラムまで、地道な活動が数多く見られました。

また社会の様々な文脈の中で活動できる音楽家の育成をめざし、ハーグ王立音楽院をはじめとする各国の音楽教育機関が提携、修士課程 N A I P (New Audiences and Innovative Practice) を創設し、留学生の受け入れを進めています。



社会が多様化し、あらゆる文化的背景を尊重する必要性が高まる中、その場その時に呼応して柔軟に能力を発揮する音楽家が求められ、そのための道筋が

広がりがつつあることを強く感じました。

なお、このシンポジウムでは、ワークシヨップ・テクニクの整理を目的とした動画撮影も同時に進められ、後日オンライン上(N A I P の H P)で公開される予定です。



ⁱ Société Gavignies: 音楽教育の発展を目的にデン・ハーグで設立された私立基金。

ⁱⁱ Prins27: デン・ハーグ市内の文化センター。もとは音楽学校であった建物を改築し、劇場、カフェなどを併設。

ボストンのアウトリーチ担当者会議

津上智美

五月十八日(水)と十九日(木)の二日間、米国ボストンのニューヨーク音楽院で行われたアウトリーチ担当者会議 C, MON (Collegiate Music Outreach Network) に学部事務室の伊藤睦さんと私の二名で参加してきました。

この会議は二〇〇七年に米国の三校(ニューヨークのジュリアード音楽院とマンハッタ音楽院、ボストンのニューヨークランド音楽院)によって始められたのですが、実は本学のアウトリーチが特色GP(グッド・プラクティスの略)という文部科学省の補助金を受けた時に最初に視察に行ったの

が、この三校でした。二〇〇五年十一月のこと、日程がタイトでニューヨークでの見学日が一日しか取れず困って相談したところ、ジュリアードとマンハッタン音楽院のアウトリーチ担当者が互いに連絡を取り合って、午前中にマンハッタン、

は五年振りの参加でした。五月にボストンで開催というのは初めての試みです。

午後にはジュリアードのアウトリーチ活動の見学を組み込んでくれました。翌〇六年夏にこの三つの大学の担当者が話し合って、〇七年一月からニューヨークでのアウトリーチ担当者会議が始まりました。始めは Consortium for Educational Outreach at Conservatories and Schools of Music と呼ばれてい

ました。会場はニューイングランド音楽院の一八六七年の創設で、アメリカ最古の音楽院という歴史を誇ります。



会議は院長ライブラリーで行われました。今回の会議には、ニューヨークランド音楽院を始め、バークレー音楽院、ボストン大学音楽学部、ボストン音楽院、ジョン・ホプキ

ンズ大学のピーボディー音楽院、カーティス音楽院、イーストマン音楽院といったアメリカの名門校を中心にアウトリーチ関係者が十九人集まりました。教員も職員も入り交じって、各校の取組について発表し合い、成果や課題について率直な意見交換がなされました。



Schools of Music と呼ばれていました。長くて呼びにくいので、十一年に現在の名称に変更になりました。私は〇七年、〇八年、十年と十一年に参加しましたが、近年は一月に海外に出るのがむずかしくなっていて、今回

はニューイングランド音楽院を始め、バークレー音楽院、ボストン大学音楽学部、ボストン音楽院、ジョン・ホプキ

ンズ大学のピーボディー音楽院、カーティス音楽院、イーストマン音楽院といったアメリカの名門校を中心にアウトリーチ関係者が十九人集まりました。教員も職員も入り交じって、各校の取組について発表し

を地域のさまざまな場を送り出し、演奏の機会を与えていきます。現在、百二十五団体と提携を結んで、年間四百回から四百五十回の音楽プログラムを実施しているとのこと。対象は学部生と院生で、各種のフェローシップが設けられています。ギフト（謝礼付きの単発の仕事）の紹介も積極的に行っており、その場合の演奏料は一時間百二十五ドル以上と定めているといった話も聞くことができました。



CPPPプログラムを地域社会にアピールするために、カラフルなワッペンや缶バッジも作られています。こういう遊び心を、本学ももう少し見習ってもよいかもしれません。

二日目には学生たちの実際

の活動を見学する機会が設けられました。伊藤さんはシユタインナー教育を熱心に行っている小学校、私はユダヤ系の団体が経営する高齢者施設での活動を見学しました。会場は高級住宅街にあるシニア・ハウスの集会所で、出演は歌とベースとピアノの三人組です。ピアノはアップライトで、音はやっぱり少し狂っていました。

歌い手はタップ・ダンサーでもあり、途中でタップの披露もあって拍手喝采を浴びました。四十五分間のプログラムで、ジャズやオペラのアリア等が演奏されましたが、その間三人とも一切楽譜を使わず、アイ・コインタクトでスムーズに進めていたのが印象的でした。最後の質問コーナーでも、どうやって自分の楽器と出会ったのかというフロアからの質問に対して、歌からベース、そしてピアノ

ノへと次々に受け渡ししながら、三人がそれぞれ簡潔に答えるといふ連携のよさで感服しました。



近年、日本でもアウトリーチ教育に取り組む大学が増えてきていますが、残念ながら横の交流はほとんどありません。今回、アメリカでの会議に参加して、胸襟を開いて率直に語り合うことの大切さを改めて感じました。日本では「沈黙は金」「不言実行」等、自分がやっていることについて喧伝するのははしたないという感覚があるように思いますが、そうした縛りを解いていくことで見えてくるものもあると思います。

本学のアウトリーチ教育は

昨秋、スタートから十五年を迎え、それを機に『音楽によるアウトリーチ』活動記録集（二〇〇二～二〇〇四、二〇〇九～二〇一四）を作成しました（本年三月末発行、二〇〇五～〇八については特色GP報告書として〇八年に発行）。付録DVDには九十四分程の映像も納められています。これは百二十時間あまりに及ぶ過去の活動記録映像をすべて見返して選んだベスト・シーン集です。

今後、神戸女学院のアウトリーチ教育はどう進むべきなのか、内外のさまざまな人々と語り合いながら考えていきたいと思えます。



アウトリーチ一期生

寺澤彩

七月十六日(土) 十時から十三時まで、音楽館(A三一三教室)で「音楽によるアウトリーチ既習生の集い」が開かれました。当日は一期生から十四期生

まで十一名の既習生が集まり、これまでのアウトリーチ活動の映像記録をまとめたDVDを視聴して、懇談の一時を持ちました。

本学では「音楽によるアウトリーチ」が二〇〇一年度後期から授業として開講され、今年で実習開始から十五年となります。その間に、百二十四



名の既習生が巣立ち、社会へと羽ばたいています。

当日は久しぶりの再会を喜んで、近況を報告しあったりとお子さんの参加もあつて、開会前から大変盛り上がりました。お子さんの参加もあつて、とても賑やかな、よい雰囲気となりました。津上智実先生のお話の後、早速DVDを鑑賞しました。

このDVDは、二〇〇二年から〇四年度、〇九年度から十四年度の計十年間に、歴代の既習生が取り組んできた「子どものためのコンサート・シリーズ」と「学外アウトリーチ」との記録映像を約一時間半にまとめたものです。映像を見始めると、懐かしい記憶が鮮やかに蘇ってきました。苦労したこと、ハラハラ・ドキドキしたこと、うれしかったこと、楽しかったこと……。どの映像の、どの瞬間にも一生涯命に取り組んだそれぞれ

れの思いがにじみ出ていました。

DVDを鑑賞した後は、各人の近況を伝えあったり、現在抱えている問題を打ち明けて相談しあったりと活発な交流がなされました。アンサンブル・グループを結成して活躍している既習生、就職後に改めて音楽家としての活動を始めた既習生、留学先から帰国して地元での活動を模索している既習生などが、女性として音楽家としてどのような音楽活動をどのような方法で展開していくのか、という点については皆共通して試行錯誤していると感じました。一方、若い既習生にとっては先輩の活動の様子を聞いたのがとてもよかったです。

参加者からは「先輩、後輩の皆さんに会えて、実りある時間を過ごせた」「歴史を感じた。アイデアの宝庫だと思った」「ア

ウトリーチで学んだことが現在

に活かしている」「アウトリーチのワクワクした気持ちをまた思い出した」「アウトリーチというのは答えがないようなものだと思うが、これからも音楽と人とのつながりを形作るのがアウトリーチの意義だと思う」「みんなの活躍の様子を聞けて勉強になり、私もがんばろうと思った」

「子育てをしながらも、またコンサートをしたと思えた」といった声が寄せられました。今後も神戸女学院のアウトリーチ活動が、たくさんの方々から必要とされて発展していくことを願ってやみません。



今後の活動

第七回 音で遊ぼう！

子どものための

音楽作りワークショップ

第七回「音で遊ぼう！子どものための音楽作りワークショップ」を九月二十四日（土）九時から十六時まで音楽館ホールで開催します。

今年も大学連携事業の一環として、英国ギルドホール音楽院リーダーシップ・コース修了生三名（ナターシャ・ジェラジンスキ、デッタ・ダンフォード、東瑛子）を講師として、学生と卒業生及び一般人を対象とする音楽作りワークショップ特別研修を九月二十日（火）から五日間実施し、その仕上げとして最終日に近隣の子どもたちを招いて行うものです。関心のある方はどうぞご参加下さい。

子どものための

クリスマス・コンサート

今年度の「子どものためのクリスマス・コンサート」（シリーズ第四十五回）には、うれしいことに卒業生の三グループ（一期生、九期生、十四期生）から企画応募がありました。いずれもよく考えられたプログラムでしたが、六月の学科教授会で慎重に審議した結果、一期生の内藤雪子さんを代表とするグループ（ピアノ三名、声楽二名、ヴァイオリン一名）の企画案が採択されました。ピアノ連弾を中心に、二重唱やアンサンブルでクリスマスにふさわしい曲をたっぷりと聴かせてくれるプログラムです。開催は十二月十日（土）、十一時開演と十五時半開演の二回公演で、場所は本学講堂です。どうぞご期待下さい。

子どものための

スペシャル・コンサート

二〇〇一年の秋にスタートした神戸女学院のアウトリーチ教育が今年、十五周年を迎えました。これを記念して、十五周年記念「子どものためのスペシャル・コンサート」（「子どものためのコンサート」シリーズ第四十六回）を二〇一七年二月二十五日（土）に本学講堂で開催します（十四時開演の一回公演、三歳以上入場可）。

教員（ヴァイオリン・菊本恭子、クラリネット・蔭山晶子、ファゴット・小西朋子、ピアノ・大浦春菜）と卒業生（ヴァイオリン・小林真奈美、ヴィオラ・土井茉莉、オーボエ・樋口成香、ピアノ・西脇恭子、語り・山田りさ）に在校生（チェロ・藤井桜、コントラバス・藪内弥侑、フルート・田中佑奈、岩井香那、

橋本詩織、チェレスタとシロフオン・前田紗季、ピアノ・金丸史奈、池上夏帆）も加わっての室内オーケストラの演奏で、指揮はザビエル・ラック先生です。メインの曲目はカミーユ・サン＝サーンス作曲《動物の謝肉祭》（来年は二月二十八日が謝肉祭当日なので、その直前の土曜日に演奏会を設定しました）とセルゲイ・プロコフィエフ作曲《ピターと狼》です。

当日は過去の「子どものためのコンサート・シリーズ」全四十六回を通覧する記念パンフレットを配布する予定です。本シリーズ初の室内オーケストラの出演にどうぞご期待下さい。

（アウトリーチ・センター長、津上智美）

♪ 今後の予定 ♪

◎アウトリーチ

2016年10月20日(木) 神戸市立医療センター中央市民病院
2016年11月05日(土) 野木病院
2016年11月17日(木) 国立病院機構兵庫中央病院
2016年12月6日(火) 西宮市立鳴尾北幼稚園
2016年12月9日(金) 雲雀丘学園小学校
2016年3月6日(月) 大阪市立総合医療センター
2016年3月 国立病院機構刀根山病院 (日程調整中)

◎ワークショップ

「第7回 音で遊ぼう！子どものための音楽作りワークショップ」
日時：2016年9月24日(土) 9:30~16:00
場所：神戸女学院大学 音楽館ホール
講師：英国ロンドン市立ギルドホール音楽院リーダーシップ専攻修了者
対象：小学生・中学生・高校生 先着40名
参加費：無料
応募方法：アウトリーチ・センターのホームページをご覧ください。

◎子どものためのコンサート・シリーズ

「第45回 子どものためのクリスマス・コンサート ～音楽からの贈り物～」
日時：2016年12月10日(土)
第1部 11:00 開演 (年齢制限なし、未就学児対象)
第2部 15:30 開演 (小学生以上対象 ※未就学児のお子様は入場できません)
会場：神戸女学院講堂
出演：内藤雪子、北野真理子、田中奈津紀 (ピアノ)
清水裕日、米澤明日香 (声楽)、土井美佳 (ヴァイオリン)
入場料：大人500円、子ども(19歳以下)300円
応募方法：アウトリーチ・センターのホームページをご覧ください。

◎子どものためのコンサート・シリーズ 15周年記念特別コンサート

「第46回 子どものためのスペシャル・コンサート ～室内オーケストラで聴く動物と音楽～」
日時：2017年2月25日(土) 14:00 開演 ※3歳未満のお子様のご入場はご遠慮ください。
会場：神戸女学院講堂
出演：神戸女学院大学音楽学部卒業生および教員
入場料：大人1000円、子ども500円
応募方法：アウトリーチ・センターのホームページをご覧ください。

音楽をお届けします！！

「アウトリーチ」とは、「一歩踏み出すこと」「手をさしのべること」。
大学やホールといった従来の枠にとらわれず、社会のさまざまな場ですてきな音楽のプログラムをお届けします。

♪小中学校へ：総合的学習支援プログラムとして、
子どものための楽しい体験学習を！

♪病院や美術館へ：催しの趣旨に沿った手作りの音楽
プログラムを、心をこめてお届けします。

お問い合わせは…

神戸女学院大学音楽学部 アウトリーチ・センター (月～金 10:00～15:00)
〒662-8505 西宮市岡田山4-1 TEL: 0798-51-8584 FAX: 0798-51-8551
E-mail: outreach@mail.kobe-c.ac.jp http://www.kobe-c.ac.jp/musicdp/outreach/

編集後記

7年ぶりに既習生が集いました！これからはますますアウトリーチ活動が発展していきますように。(寺澤)
後期は学外での実習やクリスマス、スペシャルと子どものためのコンサート・シリーズも盛り沢山!!! (森)
後期も精一杯サポートいたします♪私も皆さんに負けないよう全力で走り抜けます！(増田)
編集長として今年のお盆もアウトリーチ通信の校正に励む日々でした。お読み頂ければ幸いです(津上)